

利な社会ができるような取組を期待いたしまして、私の質問を終了いたします。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。

再開を15分といたします。

〈午前11時03分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。〔3番 横山人美君登壇〕

○3番（横山人美君）

みらい創造クラブの横山人美でございます。

発言通告書にのっとり、質問をさせていただきます。

1、官製談合問題における再発防止策としての職員間のコミュニケーションについて。

(1) 今回の職員の逮捕という結果を、その職員1人の個人の資質の問題と考えているかを伺います。

(2) 職場内での心の通ったコミュニケーションは、仕事の資質向上のために必要不可欠な要素だと考えます。

① 日頃の職員間のコミュニケーションで工夫されていることを具体的に伺います。

② 管理職と一般職員とのコミュニケーションで工夫されていることを具体的に伺います。

(3) 市役所内の働き方改革の現状と、現在、精神的理由により病欠されている方以外にも、出勤のつらさや困難を抱えつつ勤務を続けている職員の数の把握と対策、課題について伺います。

(4) 今回の残念な結果を受けて、職員間、または管理職と職員との間で、コミュニケーションという側面から、再発防止に役立つ具体的な案がございましたら、伺います。

2、小中学校における学校へ向かうことが困難、または、その傾向がある児童、生徒に対する援助の実態と課題について。

(1) 令和2年度に、病気、経済的理由を除くその他の理由で、年間30日以上欠席した小学生

が6人、中学生が28人いるとお聞きしましたが、学校に向かうことが困難な子供たち、または、学校に登校できても教室へ入ることに抵抗がある子供たちに対して、日々懸命に対応されている先生方や学習支援員、教育補助員の皆さんの現状と課題について伺います。

(2) 悩みを抱える子供たちの情緒の安定や人間関係の改善などを図りながら、再登校に向けた相談・支援を目的として、糸魚川市では、ひすいルーム、のうルーム、各学校には支援教室を開設し、日々、先生方と連携を取りながら、子供たちやご家族の問題と向き合い解決に取り組んでいる教育相談員の方々がいらっしゃいます。それらの教室を利用している子供たちに対して、相談員の人数、配置、待遇は適正であるとお考えでしょうか。

(3) さきの選挙における「教育を語るクロストーク」で、市長は、糸魚川の地域連携教育を進める上で、人材不足を補うために市民総ぐるみで教育に力を貸してほしいとおっしゃっていましたが、実現に向けての具体的な方向性は話し合われていますか。

以上について、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

横山議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、個人のコンプライアンスが欠如していたことが問題であると捉えておりますが、組織としても不足していた点もあることから、体制を強化してまいりたいと考えております。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、毎朝の係単位の朝礼、毎週の課の朝礼やO J Tの実施により、積極的にコミュニケーションを図っております。

3点目につきましては、働き方改革として長時間勤務の是正、業務改善の推進、ICTの活用促進等により、取組を進めております。

また、職員の体調管理については、ストレスチェック自己申告書等による面談によりまして、把握に努めており、内容によっては医療機関への受診につなげております。

なお、課題としては、抱える課題が個々により異なることから、それぞれへの対応が難しいことが上げられます。

4点目につきましては、現在行ってる朝礼や面談などによりまして、風通しのよい職場環境の構築に努めております。

2番目のご質問によりましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、部・課長からの答弁もありますのでよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

横山議員の2番目のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、一人一人の状況を把握し、教員、教育補助員、学力向上支援員などが役割を分担しながら支援を行っています。

ケースによっては、より丁寧な対応が必要となるため、時間がかかり負担となることもあります。

2点目につきましては、現在7人の教育相談員、3人の指導員を配置しており、配置人数や処遇の適正化に努めてまいります。

3点目につきましては、現在推進している子ども一貫教育、コミュニティスクールの中で、教育における地域、市民との連携、協働の重要性を周知し、さらなる理解や参画が得られるように取り組んでまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

それでは、1番から再質問をさせていただきたいと思います。

(1)につきまして、職場は1日の大半、時には家族よりも長い時間を過ごし、お互いの資質を認め、尊重し、時に戒め合いながら人として成長していく場だと考えます。

また、職場におけるチームワークも大変重要な要素です。今回、逮捕された職員に関しては、その罪の重さを十分に反省し、社会的更生を誓うことと信じております。擁護することはいたしません。つい昨日まで、お互いに信頼を寄せ、共に働いていた同僚が犯した罪を安心メールで市民に知らせたことについて、ほかの職員に対する心的影響や配慮はいたしましたか。発信の意図は、どのようなものだったのでしょうか。お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

今回、非常に重大な事案だと思っております。このことにつきましては、やはり市としても、市民の皆様に変なことを、ご迷惑をかけたという意図で、安心メールにて事件の重さを重々承知した上で発信いたしましたものでございます。職員につきましても同様に、臨時部課長会議、訓示等で、職員に対しても知らしめたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

職員の方にもお知らせになって、ケアをされているということですが、報道や事実が明るみになる中でも、仕事のパフォーマンスの向上を忘れず、懸命に働いておられる職員に対して、今現在、どのような心のケアをされていらっしゃるでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

重大な事案が起こってしまったことは、誠に残念でございますが、これを教訓といたしまして、職員一人一人については、同様なことがないように、同じ事案が二度と起こしてはならないということで周知もしてまいりますし、また、これとは別に部課長会議等を通しまして、ふだんの勤務、仕事につきましては、後退しないように前を向いて進めるようにというご指示もいただいておりますので、そのように職員に伝えて、勤務に努めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今ほど答弁いただきましたとおり、職員の皆さんが、決して萎縮することのないようなケアを引き続き、お願いしたいと思います。

それでは、（2）番の質問に移りたいと思います。

オンライン化が進む中で、画面上のコミュニケーションはできても、目と目を合わせたコミュニケーションを苦手とする人が増えています。私たち議会も行政も市民と向き合い、対話を重ねることが重要な資質だと考えます。目と目を合わせた対話の大切さにつきまして、職場内で工夫、実践されていることがございましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

先ほどの市長の答弁にもございましたが、毎朝、係単位での朝礼を打ち出しております。当然、目と目を合わせながら、職員一人一人の現状なり状況なりをお話を係単位でしておりますし、週に一度ではありますが、課によつての朝礼を行っております。課長からそれぞれ職員に対しての話をさせていただいております。

なかなかコロナ禍において、対面でお話しするのは難しい今時代ではありますけれども、いわゆる適宜、適当な距離を取りまして、なるべく職員とのコミュニケーションを図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

組織心理学においては、職場内では小さな不正よりも大きな不正が見逃されやすく、同僚の不正

行為を見つけたとき、あなたはそれをやめるように注意しますかという質問に対して、匿名回答にもかかわらず、69%の人たちが同僚の不正行為を見逃すと答えたという研究結果もございます。これらの背景には、自分さえよければとか、余計なことに関わりたくないなどの心の働きがあると予測できます。よりよい組織を目指すために、目と目、心と心を合わせた、さらなる職場環境の整備をお願いしたいところでございます。

次に、(2)の②につきまして、ここで副市長に伺いたいと思います。

副市長は、行政経験豊富な行政のトップだと伺っております。管理職の立場において、一般職とのコミュニケーションを深めるために工夫されていることはございますか、お伺いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

藤田副市長。〔副市長 藤田年明君登壇〕

○副市長（藤田年明君）

お答えいたします。

私も議員と一緒に、職場というのは楽しくなきゃいけない。本当に1日のうち、寝る時間を除くと多分、半分以上は職場で過ごしているわけです。そこがやはりつらい場所になったら、やはり生きていく上で非常に大変になると思ってますので、職場を楽しくと。楽しくするためには何が必要かという、やはりコミュニケーションが必要だと思っております。そういう意味で、私、係長、課長時代からずっとそうなんですけれども、職員に対しては、あれ、これ、それで意思が通じるような、あれどうなったとか、これどうなったって、わざと言うんですけども、ただそれで通じるときがあるんですね。それぐらい心と心が通じ合うような形になればいいのかなという、あまりお勧めはしませんけれども。

それと、やはり係長に対しても、議員おっしゃったように最近、1日中、誰ともしゃべらないような職員も増えてるんで、とにかく声がけをするようにと。仕事の話でもいいんですけども、今日はいい天気だねという、そういう会話でもいいから、要は言葉を引き出す。それによって、その人が考えてることが分かるようになる。元気がなければ、返事も元気のない返事になってくると思いますので、そういったことを全庁的に進めるようにしていきたいと思っておりますし、私自身も職員と接する際には、そういったところを心がけてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

副市長さんもいろいろ工夫されて、職員の方とコミュニケーションを取っておられるということですが、ふだん、例えば1階の市民フロアのほうや、ほかの階に赴いて、市民の皆さんにお声をかけたり、あと職員の仕事に支障のない程度の、課をまたいだような声かけなどをして、交流を図る機会などはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

藤田副市長。〔副市長 藤田年明君登壇〕

○副市長（藤田年明君）

お答えいたします。

はっきり言ってあんまりないですね。4階フロアは、やはり通常の動きの中で行く機会あるんで、結構、職員とも話はするんですけども、3階、2階、1階になると、いろんな業務の中で話をする際に、話をする機会はありますけれども、なかなか今日はじゃあ1階行って、ふらりふらりと話をしてみようかという、そういう機会は、最近少しないように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

最近は、あまりなくなってしまったということですが、移り行く時代の中で、管理職と一般職員との職業観の違いをお互いに理解し、尊重するという姿勢は、とても大切なことだと思います。ある生命保険会社が行った働き方意識調査アンケートの中で、働く20代、30代が上司や仕事に求めるものは、仕事の成果を正しく評価してくれる。また、顧客、市役所内でいえば、市民からの評価や感謝、以下、職場内での存在価値や役割、仲間や家族からの評価の順になっており、これらに共通するものは、承認欲求でございます。

私も経験がございますが、若いときには、例えば上司とか、私の場合は幼稚園だったので、園長先生や何かから認めてもらえる、自分を見ていていただけるとか、自分に気づいていただけるという気持ちは、とてもうれしいものでございます。

行動心理学のナッジ理論では、ほんのちょっとした会話を数多く重ねることで、職場内での信頼関係を深めていけるという事例もございます。今、この渦中において、第一線で働いて、頑張っておられる職員さんに、温かな心配りを可能な限りで続けていただければと願っております。

では、次の質問に移りたいと思います。

(3) につきましては、市長答弁をいただきましたが、もう少し具体的に教えていただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

今現在、いわゆる職員で休職なり療養休暇を取ってる職員は、今月6月1日現在で、精神面でいますと4名、いわゆる体のご病気という方が2名おられます。うち、精神でお休みいただいている4名の中の半数につきましては、今復帰に向けて、いわゆるリハビリ勤務ということで、1日に何時間かずつ、復帰に向けての練習をしている最中ではございますが、状況としては、改善の方向に向かっているというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ありがとうございました。働き方改革は、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくるという課題を、個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会の実現を目指したものです。単に残業が少なくなるとか、休みが取りやすいという問題だけを解決するものではなく、いかに自分が職場で、心地よく安心して働くことができるか、いかに自分が自信を持って職務に貢献し、それを自己肯定感につなげることができるかだと考えます。特に、心につらさや困難を抱えている方や、今現在、健康な方においても、お互いさまだよねという気持ちを持って、優しくフォローできるような職場環境のさらなる構築を願いたいと思います。

それでは、（4）番に移りたいと思います。

（4）番につきましては、いろいろな議員さんからも質問があり、ご回答いただいているところですが、第三者委員会を設置し、再発防止に努めるということですが、1日目の保坂議員の質問に対する答弁で、市の職員は、今回の件に限らず、個人情報も含めて秘密だらけの中で仕事をしているとございました。仕事上の守秘義務とはいえ、人が秘密を抱え続けるときに健康状態や人間関係に与える影響、不安や憂鬱といった感情、孤立感や孤独感を周囲がサポートする体制も必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように市役所の職員につきましては、それこそ秘密の情報が、それぞれ持っておりまして、日々それを抱えながら、ふだんの生活もしておるところでございますが、これはもう公務員としての宿命だというふうに思っております。

ただ、それに対して、守秘義務は必ず守らなければいけないこととございますが、それによって起こる心因的なものにつきましては、どっかでやはり違う方法で発散することも必要であると思っておりますし、その悩みを聞くことも、まず第一歩かなと思っておりますので、まず、そういう話のできる環境、職場環境づくりから行うことが、いわゆる上司の役目とも思っておりますので、その辺りから進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今ほど公務員の宿命、倫理を守るのが当然だということですが、同時に、人としての心の負担が多いことがエラーにつながることもあるかもしれないと考えます。ですので、その部分も皆さんでフォローし合って、働けるような環境づくりをしていただきたいと思います。願っております。

それでは、1番目の最後の質問にしたいと思います。

今回の問題をめぐり、様々な声が上がっておりますが、既に逮捕・起訴されている以上、憶測で

議論を重ねるべきではございません。事実関係が明らかになる中で、そのとき、そのときの対応が、今後の市政運営への信頼へ変わっていくものと考えます。こんなときだからこそ、行政と議会は、その一員であることの誇りを忘れず、一丸となってお互いの立場を尊重した議論を重ね、集約し、行動しなければならないときだと感じております。ふるさと糸魚川の在り方が、子供からお年寄りまで、分かりやすく、安心で、安全で、安定した未来が構築されることを市民は望んでおります。一日でも早く前を向き、様々な施策に不安なく着手し、市民の幸せを願わなければならないと思いますが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく今、議員ご指摘のとおり今本当に糸魚川市、そしてまた、糸魚川市役所職員にとっては、一番大変なときだと思っております。非常に1つの、やはり起きた事件に起因する失墜というのは、非常に大きいものと捉えております。担当者だけではございません。全員がやっぱりそういう今気持ちで、私は受け止めておると思っております。そういう中で、やはり我々は、日々、職務を遂行しなくてはならないわけがございますので、それに対してしっかり受け止めていかなくちゃいけない。そしてまた、それにはやはりこのいろいろなプレッシャーがかかっていると思っております。それに耐えていかなくなくてはならないわけがございますので、そういったところをしっかりとみんなで見分ち合いながら進めていきたいと思っております。最高責任者といたしまして、ぜひそのような形で乗り越えてまいりたいと思っておりますので、ぜひご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ありがとうございました。

続きまして、大きな2番の質問に移りたいと思います。

2の（1）につきまして、私は、今年の3月まで講師として、中学生を対象に学校に向かうことに心配を抱えている生徒さんや特性を持つ生徒さんの学習支援のお手伝いをさせていただきました。その中で感じたことをお伺いしたいと思います。

現場で働く先生方は、朝から授業の合間、放課後に至るまで寸暇を惜しんで困難を抱える生徒さんへの細やかなケアに奔走されており、とてもご負担が大きいように思いましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。



今、議員がご指摘いただいたとおり、学校のほうには学級集団の中でしっかり学習できる子供と、残念ながら学級集団の中では学習できない子供たちがおります。

しかし、そういった子供たちに対しても、学習保障、それから生活への適応といったものを保障していかなければなりません。最終的には、そういった子供たちも含めて、全ての子供たちが自己実現を図らなきゃいけないというふうに考えております。ですから学校のほうでは、もうチームになりまして、先ほど話に出ています学力向上支援員とか教育補助員とか、あるいはそのほかの職員も含めて、教職員一丸となって支援を行っています。

ただ、それぞれの子供たちの困り感だとか、そういったニーズが多様に異なっておりますので、そういった子供たち一人一人に対応する上では、大変現場のほうも苦労は多いものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今、チームになってということで、ご負担も大きいということが分かりましたが、そのご負担が軽減できる方法として、何かお考えになることはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

やはりそういった支援に当たれる人たちの資質能力というふうなことが、大変重要になってきます。受容・共感的に子供たちを受け入れながら、子供たちの話を聞きながら道を示してあげられる。そういった方たちをできるだけ多く採用していけるように、我々努めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ありがとうございます。学校現場で働く方の負担が減り、余裕を持って子供たちのケアに当たることができるような体制の充実を願います。

関連して、（2）の質問に移ります。

私は、子供たちに学習支援という形で携わらせていただきましたが、悩みを抱え、学習が遅れがちな子供たちに対して、支援の初日から、いきなり学習を始められたケースはございませんでした。なぜなら、そのお子さんの抱える心の問題としっかりと時間をかけて向き合い、心を寄せ、心が開いてやっと無理のない学習スタートができたからでございます。

この点につきまして、教育相談員の皆様には、大変お世話になりましたし、連携の必要性を強く感じておりました。現場では、先ほど課長さんからご答弁いただいたように、まだまだ人材が不足している。相談員の人数も足りていないと私は感じました。また、相談員の皆様が抱える仕事に対

する待遇は、もっとよくてもよいのではないかと思いましたが、今後、増員、そして待遇の改善の予定はございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

教育相談員の皆さん、全部で7人いるわけですが、それぞれがそれぞれの経験、それから識見を基に大変丁寧に子供たち、それから保護者に寄り添いながら相談を行っていただいています。昨年度の例ですけれども、月平均400件ほどの教育相談があります。そういったことをやはり相談者優先に進めておるわけですが、本当に時間を超えて、相談するケースもあります。

したがって、そういった部分での負担を軽減するために勤務時間数をまず延ばすということ、それから、比較的フレックスに仕事ができるようにというふうなことで、配慮もさせていただいております。

また、さらに、絶対的な人数が、もう少し多いといいというふうに考えておりますので、今後は、増員も含めて検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ありがとうございます。特別に支援が必要な生徒だけでなく、今問題がない生徒さんでも急に援助が必要になったり、うつむきがちな生徒さんも数多くいらっしゃいます。前向きな検討をお願いしたいと思います。

続きまして、学校での状況や教育相談員については理解いたしました。

次に、地域では、どのような支援を行っているかを伺います。

子供の居場所づくりとして、土曜学習室が行われていると思いますが、状況などを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

土曜自習室につきましては、自習環境の提供と学習の習慣づけ、また、家庭や学校以外での子供たちの居場所づくりということを目的に、平成29年度から開設しております。昨年度は、コロナ禍ではありましたが、市民図書館等をメインに能生・青海地域においても、9月から3月まで18回実施しておりました。今年度につきましても、4月から市民図書館をメインに実施させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

とても素晴らしい活動だと思います。継続されていくための課題とどのように推進していかれるかを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

課題といたしましては、子供を見守るボランティアと居場所となる施設の確保が重要だというふうに考えております。まずは、地区公民館等の公共施設を活用し、できるだけその地域の住民の皆様からボランティアとして参画していただけるよう、現在、活躍していただいております見守りボランティアの皆様と懇談会等を開催する中で認知度を上げて、見守りボランティアの確保をしていきたいというふうに考えております。

この事業につきましては、子供の居場所づくりということで、近くに、いつでも誰もが行けることが理想だというふうに考えております。様々なお子さんがいることから、このような居場所につきましては、必ず必要とされる方がいるというふうに考えておりますことから、参加人数の多い少ないにかかわらず、継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

地域の中に子供たちが出かけていき、そこに居場所があるということは、とても重要なことだと思います。今後も継続、発展されることを願います。

次の質問に移りたいと思います。

（3）につきまして、話し合いの進捗につきましては理解いたしました。公営塾の構想も、併せて進行いたしておりますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

お答えいたします。

公営塾も市長の公約ということで、うたわれておるところは、私どもは当然承知をしております。あわせて、今、市長と協議を進めながら取組を進めているところであります。昨年度、教育コンサルに相談を、補正予算でもって調査をしていただきましたので、その結果を踏まえて、今後、詰めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

進捗については、理解いたしました。このほかにも地域の人材を生かした取組があれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

コミュニティスクールについて、少しお話しさせていただきたいと思います。例えば地域の教育力を生かすということから、教科の学習とか、あるいはジオパーク学習をはじめとする総合の時間に地域人材を多いに活用していくというふうなことで、現在、多くの学校でそのような取組を行っていただいています。あるいは、地域ぐるみで見守りや、あるいは安全、そういったものを高めていくというふうな意味で、見守り活動、それから防災教育を推進していただいたりというふうなこともあります。さらに学校職員の多忙化解消の意味から、事務補助員をコミュニティスクールで独自に雇って職務に従事していただいたり、あるいは読み聞かせボランティアとかそういった形で、どんどん地域の人材を学校の中に取り込み、学校の業務改善を行っているというふうな取組もございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

学校における地域の取組は、理解いたしました。生涯学習係としての取組は、ございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

生涯学習課として、地域の人材をとということですので、二、三、事業をご説明させていただきたいと思います。

以前に青少年育成指導員として活躍されておりました方々が、今年度、任意で団体を設立いたしまして、今年度より小学校の中・高学年を対象に体験活動ということを実施するというふうにお聞きしております。当然、生涯学習課としても一緒になってやっていきたいというふうを考えております。

また、その団体の方々につきましては、今度、自分たちの仲間、指導者を増やすということから、大人のわくわく探検隊ということで、また開催されるというふう聞いております。

また、さらに今年度、新たな取組としまして、高校生を対象にしたジュニアボランティアを育成

するという活動を行ってまいりたいというふうに思っております。これにつきましては、今年度、夏休み期間中に養成講座を行い、その後実践として地域に出て、講座の講師として活躍していただきたいなというふうに考えております。

また、このほかにも各地区公民館単位で、地域の皆さんのお力を借りて、青少年事業や家庭教育事業として行っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

様々な取組が行われていることを理解いたしました。

それでは、大きな2番の最後の質問にしたいと思います。

質問全体にわたることですが、人材を待つという体制から、ただいま答弁いただいたような人材を養成するという観点は、とても有効な人材の確保の手段だと考えます。例えば子育てに悩むお母さんが、教育相談員や補助員として多くの子供たちの姿を知ること、比べるということではなく、お母さん自身と自分の子供の立ち位置が分かるという学び方もございます。先ほどの悩みを抱える子供たちには、近くに誰かがいてくれるだけで心が落ち着き、前を向けるという場合もございます。糸魚川市には、経験豊富な相談員やカウンセラー、そして地域の皆さんがたくさんいます。このような人材を生かし、市民大学のような養成講座を立ち上げ、子育て中のお父さん、お母さんから現役を退いた方まで、幅広く学べる場を提供する中で、地域連携教育につなげる施策と人材確保を、ぜひご検討いただきたいと思います。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、糸魚川市は高齢化社会を迎えております。非常に私は、高齢化社会はいろいろ耳にすると、何か悪いほうにイメージをしてしまうんですが、私は決してそうではなくて、やはり高齢者の皆さんというのは、非常に多くの経験を積んでおられて、また知識を持っておられるわけでございますので、そして、高齢者は時間の余裕をお持ちの人が結構多いわけでございますので、やはり糸魚川市の子育て、また、糸魚川市の地域のためにいろいろご活躍いただきたいなと思っております。そういったところをご本人の皆様方にだけ押しつけるのではなくて、我々はどうしたらそういった人たちが集まってきていただいて、いろいろまた、いろんなところで活躍いただけるかというところをやはり探っていかななくてはいけないし、また、我々糸魚川市には、非常に自然豊かであったり、また、こういう時代でございまして、市の持つおる空きとる施設もございまして、そういったところを核にしながらどこかできないのかな。そういったところにまたいろんな人たちが集まり、また、教育の場面でも、またそういった地域の場面にもいろいろと生かしていけるところが、私は感じとるわけでございまして、ぜひそういった広く市民の皆様方、そして時間的余裕、また知識の持

っている人たちに呼びかけていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ありがとうございました。子供たち一人一人の笑顔が輝く糸魚川であるために、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、質問を終わりたいと思ひます。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

昼食時限のため、暫時休憩いたします。

再開を1時といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。〔8番 渡辺栄一君登壇〕

○8番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。市民の皆様をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し、結果、緑の交流都市、さわやか、健やか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1番目は、新たな仕事を生み出す対策について。

未来の人材確保及び教育について、米田市長の公約に基づき、お考えを伺います。

全国的な課題となっておりますが、人口減少が進んでいることは、多くの皆さんの共通した認識であります。当糸魚川市におきましても、平成17年3月の市町合併以来、人口減少と高齢化が著しく進んでおり、本来、にぎやかであるべき駅前の日本海口、南アルプス口を見ましても、閑散とした状態が、ここ何年も続いているように感じております。この減少と併せて、新型コロナウイルス